

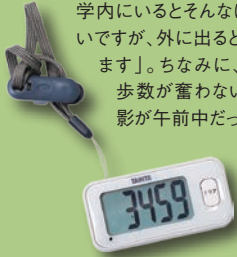
毎日のルーティン

常にデジタルカメラを持ち歩き、朝昼晩の食事や出掛けた場所、出会った人、気になるニュースなど心のおもむくままに撮影。翌朝、前日に撮った写真などをアルバムの台紙1枚にまとめるのがルーティンとなっている。それらの中から学生たちの写真を集めて製本し、ゼミアルバムとして修了時にプレゼントするのが恒例で、大変喜ばれているという。



健康のために

奥さんからプレゼントされた万歩計を毎日持ち歩いており、その日の歩数はもちろん手帳に記録する。「1日1万歩が目標です。学内にいるとそんなにいきませんが、外に出るとクリアします」。ちなみに、写真の歩数が奮わないのは撮影が午前中だったから。



学生からのプレゼント

学生から贈られた自身の似顔絵Tシャツを大切にしている。「指し手感覚」とは動機付け理論の一つ。「授業で紹介したら、印象に残ったようです」。これを着た人はイラストと同じポーズで撮影するのがお約束だとか。

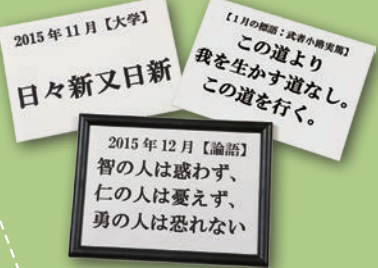


先生に質問!



自分自身をマネジメント

「毎日大切に、しかも前向きに充実させていくために」と、アルバム日記とともに実践しているのが、能率手帳で1日ごとに自身の頑張張り具合を3段階で評価すること、自らが心掛けたい行動として「今月の標語」を設けること。標語は額に入れ、研究室内の目に付く場所に掲げている。言葉のチョイスは論語や四字熟語などさまざま。



必携の視察グッズ

学校などを訪れる際は、カメラと手帳、名刺入れのほか、「礼儀として」名刺も必ず自分で用意。それらを入れる大きなかばんは時々買い替えるものの、ショルダーストラップだけは20年来愛用している。「彼」とは常に行動を共にしていて、仲間ですね。フィット感がいいんです」



あさの りょういち
浅野良一 教授
学校経営コース

昭和53(1978)年、東北大学教育学部卒業。民間企業でマーケティングなどを担当した後、61(1986)年に産業能率大学入職。経営管理研究所主任研究員などを経て平成19(2007)年から現職。学校組織マネジメント、人事管理、人材育成・職能開発を研究分野とし、加東市小中一貫教育研究会座長、兵庫県教育委員会外部評価委員をはじめ約20の学外審議会・委員会等で活動している。授業は学校経営論(学部)、学校組織マネジメントと学校評価(専門職学位課程)などを担当。

先生の専門「学校経営」とは。

学校組織を効率的・効果的に動かして成果を上げる学問で、特に管理職(校長・教頭)に必要な分野です。大学院では、都道府県から派遣された現職教員を対象に講義・演習を行っています。院生は40歳を過ぎた将来の管理職候補者で、豊富な現場経験を生かすとともにそれらを再構築し、よりよい学校づくりに生かしてほしいと思います。

教える上で特に気を付けていることは。

特色ある実践を行っている学校を年間50校ほど訪問することで、学校経営研究の参考にしています。貴重なフィールドワークなので、学生にも参加するように呼び掛けています。教職大学院で大切にしていることは、「理論と実践の融合」です。実践事例を一般化・汎用化することや、既存の理論を実践の場に生かすための指導に重点を置いています。

県市町村などで多くの委員を務められていますね。

現場には最新の情報があり、成果を上げるヒントや課題解決の事例が豊富にあります。依頼があれば、各種委員を積極的に引き受けて、得られた知見を授業等で提供するようにしています。学生たちには、全国の先進的な情報や自らが生み出したノウハウを学校や県市町村に持ち帰り、学校教育全体に影響を及ぼす「スーパー管理職」になることを期待しています。